

第 188 回川越市都市計画審議会 会議録

※以下は当審議会における「川越市都市計画マスタープランの改定について」に関する審議内容のみを抜粋したものです。

第 187 回議案第 1 号「川越市都市計画マスタープランの改定について」

議案説明 資料：川越市都市計画マスタープラン全体構想改定素案

質疑

(事務局) 本日欠席の飯島委員から、意見が事前に提出された。本来であれば、欠席委員は意見を述べることはできないが、書面にて事前提出されたので、意見を朗読させていただきます。よろしいか。

(議長) 朗読を認めてよろしいか。

(委員) 異議なし

(事務局) (意見を朗読)

一点目、「まちづくりの理念」について、『中核都市としての誇りをもったまちづくり…』の『誇り』という表現が抽象的と考える。具体的な「中核都市としての誇り」の註記を希望する。または、「中核都市として賑わいのあるまちづくり」の表記の方が、中核都市という規模で人口も多く、観光客も多く「賑わい」という表現が理解できる。

二点目、「道路・交通体系の方針」の項目に「自転車道路の整備」の追記を希望する。

三点目、「交通体験の整備方針①地域の特性に応じた持続可能な交通ネットワークの構築」に、ライドシェアのキーワードが入るといいと思う。20年後にむけたマスタープランのため、その間の可能性のある交通手段については表記をしておくといいと考える。

四点目、「災害に強い市街地の形成①②③」について、災害にも地震・火災・水害などいろいろある。火災に対する災害が主な標記で、川越は火災による被害の歴史があることから、あえて「火災に対する防災」という表記をすることを提案する。

五点目、「地域住民との協働によるまちづくり」の内容は、現在推進していることのように感じる。20年後を見据えたマスタープランに表記する場合、昭和の街の将来像の明記を希望する。

(委員) 一点目、コンパクトシティと防災に強いまちづくりは難しい考えがあると思っている。南古谷は浸水6メートルと日経新聞に書かれたこともある。高齢の方にとつ

ては電車などの公共交通機関は近いところが良いが、若い人にとっては必ずしもそうではない。川越市はどのような方向を目指すのか。電車が浸水地域にかかっていたりもするので、防災上で何か具体的に検討できるとよいと感じた。

二点目、持続可能な公共交通について、今「人」を運ぶことを中心に考えているが、例えば、地場産の野菜を運ぶとなどといったことによって、産業的なものや地域の農産物を交通を利用して人とプラスして乗せてはどうかと考えた。

三点目、水と緑の街づくり、歴史文化に根ざしたと書いてあるが、川越の伝説の中にいろいろなヒントがあると考えている。例えば、浮島稻荷神社の「片葉の葦」という伝説があるが、現在、水が多いところに住宅地を作ってしまったために洪水の問題が起きている、このような過去の歴史を地域の特性に生かすというような将来像を考えることが必要ではないかと思う。

四点目、道路について、現在、蔵のまちは、観光と住む人の意見が対立しており、こういったところをどうしていくのか。例えば、極端な話、蔵のまちを広場にするとか、川越市の中心地に交通を通すけれども、その周辺の道路に滞留できるようにするなど、この場で考えていかないと結論がなかなか見出せないこともあると思う。商業観光地と住居地域の棲み分けや道路の一方通行など考える必要があるのではと思っている。

五点目、道路の話に加えて、自転車道の整備の問題、舟運は難しくても、川をもう少しうまく使えるような方法が20年後には出てくるのではないかと考えている。歩道については、木を使って古道のようなものを整備していくのもあるかと考える。

六点目、環境に関して、川越森林公園をきっちり残していただけたらいいのではないかと思う。

七点目、川越市駅を含めた3駅周辺の顔はそれぞれだと思う。色々な顔があると思うので、はっきりとしていくといいのではないかと思う。

(担当課) 一点目について、川越市もコンパクトシティプラスネットワークということで、都市機能や人口を誘導して、鉄道やバスで結ぶことを第一に考えている。南古谷の浸水地域が重なっているところについては、立地適正化計画のなかで防災指針を検討しており、居住を誘導している場所だが、必要な対策について検討を進めているところである。

二点目について、運送法で人と荷物を運ぶのは分けがあるということだが、お客様と荷物を混在して運ぶ貨客混載の実験をしたところがあると記憶している。そういった視点をもって検討したいと思う。

三点目、昔の人の知恵はそういったところで传承されているのは承知している。そういったものも勉強していければと思う。

四点目、中央通りは名前が示す通りもともと市の中心になっている道路で、そこが今観光地となり、人と車の錯綜が起きている。一方通行に始まり、過去に社会実験などで検討したところではあるが、なかなか合意にいたらないのが現状で、それを軽減するものとして色々な検討を行った。例えば、あぐれっしゅ川越の脇に観光用の駐車場を設けて中心市街地を車で通らないように周辺に車を止めて歩いていただく、もしくは観光地を周遊するバスのバス停を作って交通の流入を抑える、自転車シェアリングのポートを色々な所に設置するなど、交通の分担により低減を図っている。引き続き協議を続けていきたいと思っている。

五点目、川越は昔ながらの地域が多く、すでに住宅が張り付いていて整備が困難な状況ではあるが、都市計画道路の整備や生活道路についても、道路部署と連携して、通学路など危険性の高いところを優先的に取り組んでいる。少しでもできるように検討したい。

六点目について、私たちもすべて都市化というわけではなく、水・緑は骨格といった拠点やゾーンを大事にしたいと考え、記載している。

七点目について、いただいた意見を参考に、市駅の特性を考えながら検討していきたいと考えている。

(部長) ご指摘いただいた、コンパクトプラスネットワーク等の防災の話は、何をしていくかというよりも、市としてどう考えるかというところだと思う。議会などでご指摘いただいている点だとは思いますが、何か書けることがないか検討したいと思う。

過去の歴史から学ぶ部分について、構成の中でそういったことをトピックス的に記載ができないか検討していきたいと思う。

人と貨物を一緒に運ぶといったことまで踏み込んだ議論というのは、これまでできていなかった。また、自転車道の話や、川を使うことについてはこれまでも議論があったかと思うが、そこまでクリアにできていないかと思う。新たな課題、どこまで書けるのか関係部局と共有していきたいと思う。

一番街周辺の交通問題に関しては、現状では交通体系の整備方針の中で、「中心市街地における交通渋滞の緩和」の中で今まで市として取り組んできている都市計画道路の整備や、交差点改良その他諸々について記載しているところだが、ご意見を踏まえ精査していきたい。

森林公園について、今回は、水と緑のまちづくりの方針の中で、緑ということで現行マスタープランでも「森林公園」と明示しているが、今回策定方針として説明したとおり、環境基本計画、みどりの基本計画などの他の個別計画と重複している計画が各種あり、その策定期間が各々であるため、みどりの基本計画に従ってやっていくことを基本的な考え方として統一している。そうしたことから、あまり具体的に踏み込まずに都市計画マスタープラン自体を改定していこうと思っているが、

重要なものについては明示したほうが良いのではないかとということであれば、議論・検討していきたいと思う。

市駅に関して、「市街地整備の方針」の中で、「都市的活動核の整備」「川越市駅周辺の拠点性の向上」と位置づけており、ご指摘の市駅や、本川越駅、川越駅のそれぞれの特色を、もう少し書ければよいのではないかとことだと思いが、市駅に関しては、まさに今、素案に「駅周辺整備の目指すべき将来像の策定に向けて鉄道事業者等と連携して推進していきます」と特色を書き添えており、これまでも市駅に関する方向性は示しているため、より具体的な市駅が目指すべき像というのは、これから具体的に考えていければと思っており、同時進行的に進めたいところではあるため、今後4月頃に素案を提出する予定だが、そのタイミングまでにどこまで書けるかということによってくるかと思っている。

(議長) 時間の都合もあるため、口頭または書面で意見を提出していただくことを提案したい。これからいただく意見も含めて次回の継続審議という形にしたい。

審議結果：継続審議